

第62回展 大阪市立美術館  
2009.9.29 ~ 10.4

# 創造美術 SOZO



K. Suzuki



Albergo Bello (南イタリア)  
金田 徳蔵

## 表紙のことば

鈴木啓子

青い空と海・・・  
白い建物と眩しい光・・・  
澄んだ空気と心地よい風・・・  
夢とロマンが広がる一ページ  
そんな思い出をこの一枚の絵に  
託して描きました。

# 第62回展

# 創造美術協会

2009年9月29日(火)～10月4日(日)

大阪市立美術館



主催：創造美術協会  
後援：大阪市、大阪府  
大阪府・大阪市教育委員会  
読売新聞大阪支社  
読売テレビ



カット 大東眞沙子

# 目 次

表紙絵(表紙の言葉)	鈴木 啓子
第62回創造展において	石原 和代 …………… 1
芸術性	今村 市久 …………… 2
雲仙普賢岳の想い	田中 仁三郎 …………… 3
これからの彫刻部	杉村 仁 …………… 4
ものごとはほどほどに	瀬川 展彦 …………… 5

## エッセイ

駒田 和洋	瀬川 展彦	上野 敦子	中井 良雄
鈴木 啓子	大野 一郎	茂野 迪子	保手濱信子
前川登志子	岡本 俊子	白井 悦子	姫野 伊作
出口千加子	森田サチ子	田中記代子	前田 和代
松谷 慶子	太田 保子	鬼塚 正子	森本 康弘
廣川 敏正	新里 明子	辻本 俊夫	森 圭以
糸数裕美恵			

## カット

今村 市久	栗栖 昭夫	田中仁三郎	樋口 英雄
瀬川 展彦	中村 寛	小泉 勝子	吉田 隆
有友美智子	岡本 隆	金田 徳蔵	鈴木 啓子
石原 和代	大野 一郎	茂野 迪子	二宮 義一
中村 皓子	保手濱信子	前川登志子	伊丹 重雄
和島 千恵	岡本 俊子	村上 昭宏	森下ヒロ子
小野美也子	瀬川 宏子	大東眞紗子	前田 義雄
山野 加代	山口 千冬	大西 博愛	梅田 典子
南 和子	武田 欣也	廣川 敏正	伊勢津洋香
津田 品子	新里 明子	瀬井 徳司	

創造美術協会スケッチ旅行	吉田 隆 …………… 18
2009創造美術選抜展について	田中 仁三郎 …………… 20
創造美術協会史	…………… 21
新会員紹介	…………… 22
在籍会員名 [絵画部] [彫刻部]	…………… 24
協賛広告目次	…………… 26
編集後記	…………… 50



二宮 義一

## 第62回創造展において

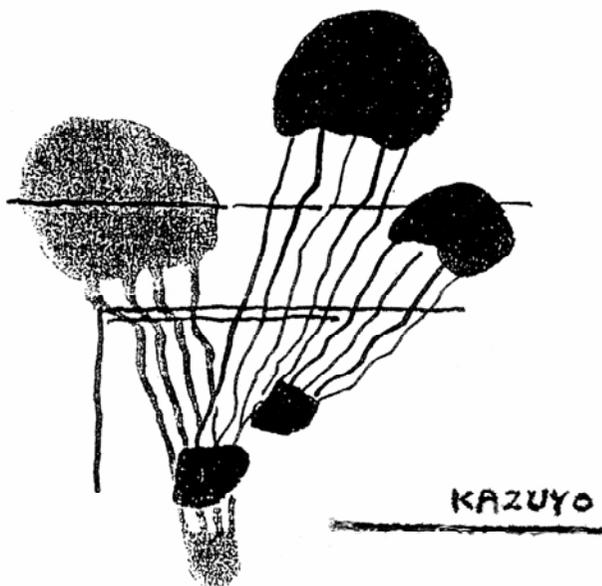
創造美術協会展も歳月を重ねてこのたび第62回展を開催する運びとなりました。

現在、私たちを取りまく環境は厳しく、メディアに振り回されがちな生活は複雑多様化しつつあります。この現実社会を真摯に受け止め、気概を持って向かい合っていかななくてはならないと考えます。諸先輩の足跡を辿りながら時代と共にずいぶん進展変容してまいりました。年に二回のスケッチ旅行は勿論スケッチ展、昨年引き続き委員選抜展と活動を重ねております。全会員の方々にも年行事に参加していただき親睦を深めています。私たち相互が一層、深層ある芸術性の追求に取り組み、魅力ある創造美術を創出できればと願っています。

いつもご支援頂いております大阪府、大阪市、各教育委員会、読売新聞大阪本社、読売テレビ、他関係各位様に心からお礼申し上げますとともに、ご観覧頂きました方々に厚くお礼申し上げます。

創造美術協会

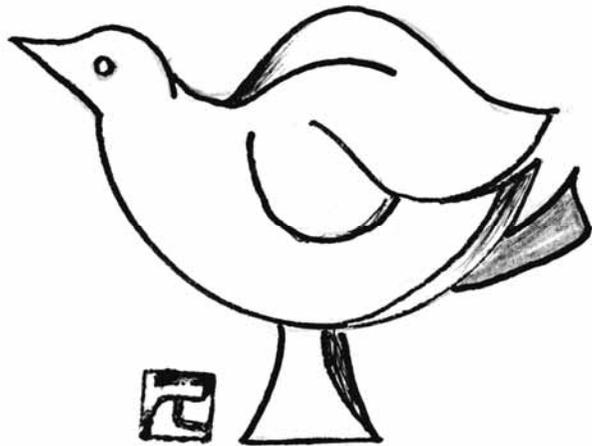
事務局長 石原和代



# 芸術性

今村 市久

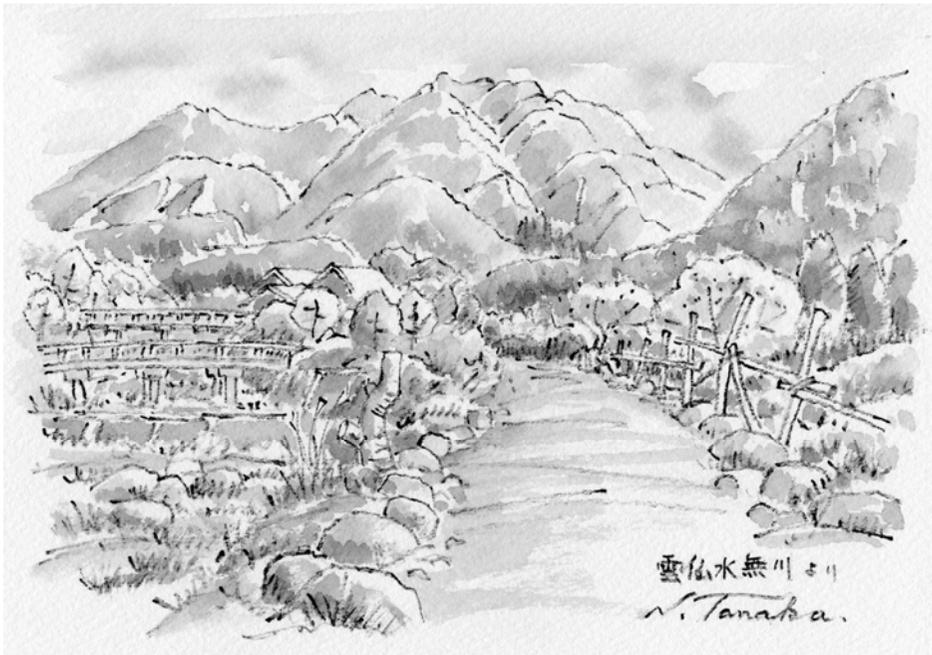
純芸術とは純粹に作られた作品をいい、大衆芸術とは自己の内部以外の声を加味した作品を云う。芸術と云うからには純も大衆もあるのではなく一本のものだと思います。たまに作品の表現が、一般大衆に解り易いも大衆芸術と云われているのではないのでしょうか。芸術とはそもそも純であるべき……深い感動を与える困難を押し切ってゆく情熱をすべて芸術の一点に集中する者の集まり、それが創造です。



# 雲仙普賢岳の想い

田中 仁三郎

今秋の写生会は九州長崎・雲仙と決まり、ずい分前に写生したことを思い出して画帳を探してみた。1974年創造の湯布院・阿蘇写生会の際この後別行動をして足をのばし車で熊本・天草五橋・島原雲仙・長崎・佐世保・門司と十日ほどスケッチに明け暮れた。このときの雲仙水無川の雄大な風景に感動し描いたことを覚えている。1991年6月3日普賢岳の噴火大火砕流の様子はテレビで見た。43名の尊い命が犠牲になり多くの村人達にも多大な被害をもたらしたことも歴史の事実だ。ご冥福を祈るとともに心よりお見舞い申し上げます。平成の普賢岳、新しい容姿をしっかりと描かせてもらおうと今から心はずませています。  
合掌



昭和49年秋の画帳より起こしたものです

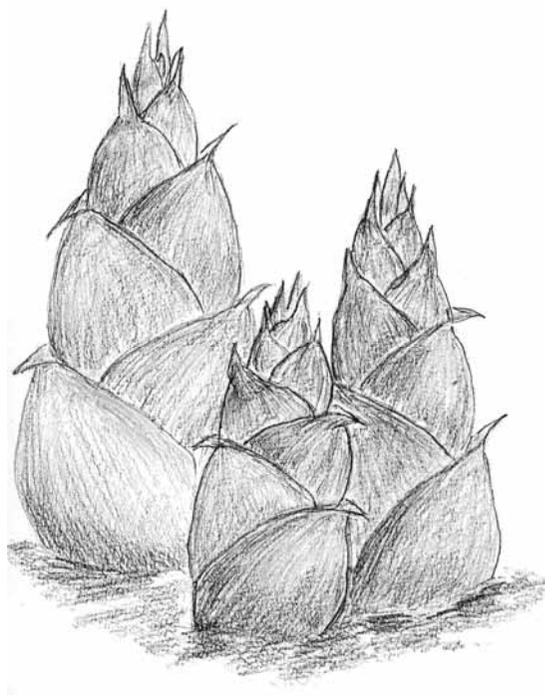
田中 仁三郎

## これからの彫刻部

杉村 仁

創造に初めて出品したのは昭和54年、私の発表業績の第2号です。以来30年、会の歴史の半分位を共に歩ませていただいております。

この度、彫刻部では大きな動きがありました。先輩の先生方が退会され、それに伴い運営体制が大きく改組されました。今後、大きなスペースの使用、テーマを決めた作品発表など、新しく制作活動を始められた方も、ベテランの方も元気を出していただけるプランを考えて行きたいと思います。また技法に関する勉強会、各地の展覧会情報の集約や発信など、入会し、続けるメリットのある、上昇志向の楽しい会を目指したいと考えます。絵画部の皆様方をはじめ、ご助言、ご援助を願う次第です。なにとぞ宜しくお願いいたし、ご挨拶と致します。



瀬井 徳司

# ものごとはほどほどに

瀬川 展彦

庭の牡丹や芍薬の花も終わり、夏椿のまるい緑の蕾のさきが白くめだち始めました。大阪の北の果てといわれる能勢も田植えも済み、里山も特産の栗の木があおあおと新芽をふきだしています。

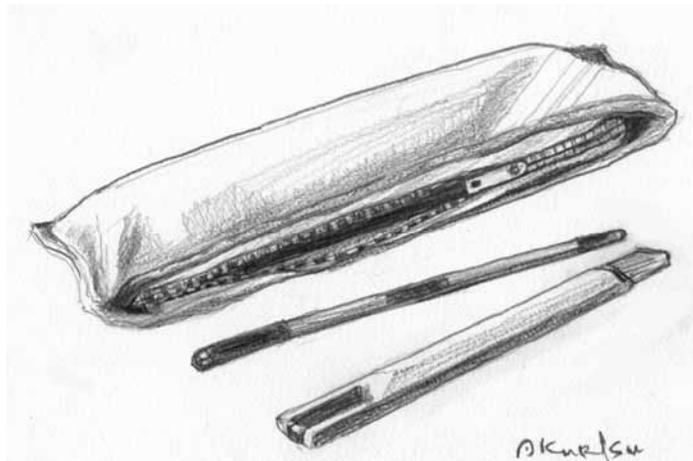
いつものことですが、作品も頼まれ物も、期日ぎりぎりまで動きださない性分が災いし、去年は編集部から依頼されていた原稿をまだ日にちが有るからと後回しにしていたのが急な入院で大変なことになり編集部の方に迷惑をかけました。

俗語に尻に火がつくといいますが、「火の付いたときに制作した作品を後でよく見ると、やはりここと、あそこかと、後悔するときがよくあるものです。でもあまり考え過ぎると描きこみ過ぎたり色が濁ったりと良いことばかりでも無い。やはり人生も、描く作品も、真ん中ぐらいが良いのでは。



今年のコスモスは、会期中が満開です。

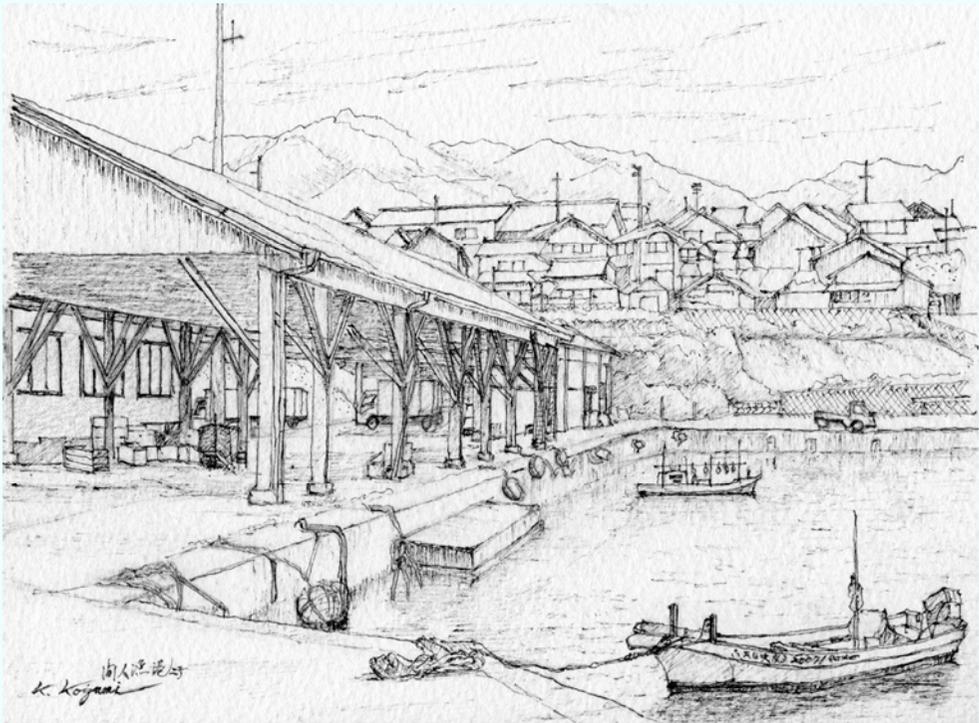
瀬川 展彦



ある経済人の言葉。

人は何度やりそこなっても「もういっぺん」の勇気を失わなければならずものになる。

栗栖 昭夫



小泉 勝子

## 編集後記

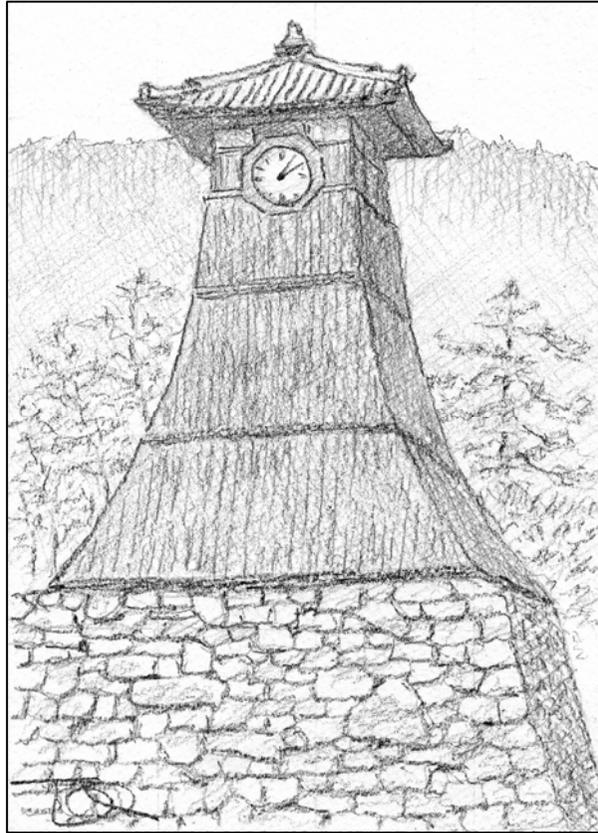
大野 一郎

創造は会の運営、旅行等を会員の手作りで行っています。今回も大勢の皆さんの働きによって冊子を完成させることが出来ました。カット、エッセイ、旅行の資料、そして広告取材、会員の皆様の協力ありがとうございました。エッセイのテーマは私の絵他自由にとお願いしましたところ、バラエティーに富んだ内容で、いまさらながら創造の幅広さを感じました。ありがとうございました。

冊子発行に当たり、協力くださいました広告主の皆様には深く感謝いたします。

## 編集スタッフ

鈴木 啓子 大野 一郎 茂野 迪子 村上 昭宏 山野 加代 山口 千冬



岡本 隆

平成21年9月12日発行

発行者 創造美術協会

事務所 〒544-0033 大阪市生野区勝山北1-18-18-604

石原 和代 方

TEL 06-7850-8788

ホームページ <http://sozo.fc2.web.com/>

印刷所 勝栄堂印刷社

〒551-0031 大阪府大阪市大正区泉尾4丁目3-5

TEL 06-6553-6767



創造美術協会